



人はピアサポートという言葉も使われています。当事者の関わりはどのような範囲で行われているのか、

社会保障審議会障害者部会の模様

阿部一彦日身連会長は、ピアサポートなど当事者の立場から行う相談支援が重要であることから、地域の障害者相談員をはじめとした障害当事者が

7月16日(金)と7月28日(水)、厚生労働省の社会保障審議会障害者部会(以下、「障害者部会」)が開催され、障害者総合支援法の見直しに向けた検討が行われました。

総合支援法見直しに向け検討つづく

社保審障害者部会

障害者部会では、障害者総合支援法の施行後3年の見直しに向けて、関係団体ヒアリングを経て整理された論点に基づき、月2回程度のペースで検討を続けています。7月に開催された部会では、「障害者の相談支援等について」「地域生活支援事業等による地域づくりと連携した支援等について」「障害児支援について」などを論点とした検討が行われました。

日身連

発行所
社会福祉法人
日本身体障害者団体連合会
(中央障害者社会参加推進センター)
発行人 阿部一彦
東京都豊島区目白3丁目4の3
デアダックビル4階
TEL 03-3565-3399(代)
FAX 03-3565-3349
http://www.nissinren.or.jp
Japanese Federation of
Organizations of the
Disabled Persons (JFOD)
年間購読料 正会員1部 300円
非会員1部 1000円

国土交通省では、新幹線や特急車両の車いすのフリースペースのあり方について、障害者団体、鉄道事業者と連携し、協議検討を行っています。特に、新幹線のバリアフリー対策をめぐっては、去年10月に国土交通省が新たに導入する車両には車いす用のスペースを増やすよう義務づけ、東海道新幹線でもスペースを増やした車両が導入されています。そうしたなかで、今夏、北陸新幹線E7系で車いすフリースペース(4席に増加)が整備された車両が走行されることから、6月23日、上野から大宮間で試乗会が行われました。当日は、赤羽一嘉国交大臣、深澤祐二JR東日本社長等と一緒に、検討会メンバーの4団体が試乗、日身連からは小西慶一副会長が参加しました。20分足らずの短い時間で、乗降、フ



販売ワゴン通行時の状況



赤羽大臣と試乗会参加のみなさん

北陸新幹線E7系試乗会に参加 車いすスペースが増加

リースペースの動線、販売ワゴンの通行状況等を確認しました。特にドアセンサーの感知範囲が工夫され、ドア前のスペースでも気兼ねなく乗ることができます。また、窓側に2席確保され景色を楽しむことができるようになりました。この車両は7月から運用、予約は従来通り、乗車の1カ月前の10時からみどりの窓口のほか電話やWEBで申し込みができます。

相談支援事業に関わっていける仕組みづくりに触れるとともに、地域生活支援事業については、自治体ごとの取組状況の格差が大きいことから、地域の当事者団体や家族グループなどが積極的

に施策に参画し、意見を述べていくことが重要であることなどを述べました。障害者部会は、年末に向けて論点ごとの検討を進め、意見の取りまとめを行う予定です。